



神奈川支部報

神奈川支部報 第 22 号

発行日：2022 年 7 月 1 日

発行者：込田伸夫

発行所：公益社団法人日本山岳会神奈川支部

横浜市青葉区若草台 2-58 込田方



令和 4 年度支部総会開催される

5 月 22 日 (土) 15:00~16:30、横浜駅西口に「かながわ県民センター」において令和 4 年度神奈川支部総会が開催された。

決議事項

- 第 1 号議案 令和 3 年度事業報告
- 第 2 号議案 令和 3 年度会計報告
- 第 2 号議案 令和 3 年度監査報告書
- 第 3 号議案 令和 4 年度事業計画
- 第 4 号議案 令和 4 年度予算計画
- 第 5 号議案 支部規約一部変更
- 第 6 号議案 執行体制

総実出席 26 名 委任状による出席 42 名 (支部長または事務局長に委任) 書面による議決権行使 13 名 (全員全議案に賛成) 計 81 名

令和 4 年 3 月末現在の支部会員は 141 名で、出席者 81 名は過半数を超えているので、支部規約第 13 条第 2 項より、本総会が成立していることが報告された。

次いで、支部規約第 15 条により、本総会の議長に込田支部長が選出された。

(1) 永井事務局長より、令和 3 年度事業報告について説明があり、承認された。

次いで、青木会計担当より、令和 3 年度会計報告の説明があり、承認された。さらに、砂田

監事より、会計監査および業務監査の結果について報告があった。

(2) 永井事務局長より、令和4年度事業計画について説明があり、承認された。次いで、青木会計担当より、令和4年度予算案の説明があり、承認された。

(3) 永井事務局長より、事業の多様化・事務処理に対応するため、支部規約第7条(2)の役員定数を「10名以上15名以内」となっている現行の条文を「15名以上20名以内」に変更したい旨の提案があり、承認された。

(4) 永井事務局長より、令和4・5年度の役員候補者18名(重任15名+新任3名)と監事候補者2名(いずれも重任)の提案があり、承認された。

神奈川支部 令和3年度事業報告

《かながわ山岳誌PJT》

令和3年度は「かながわ山岳誌プロジェクト」の活動を加速させ、月2回の踏査山行を実施し(7・8月を除く)、2つのグレード(ハイキング・登山初級程度のレベル=L、登山中上級のレベル=H)山行を実施予定だったが、新型コロナウイルスのため、4月下旬~9月での山行は、中止。4月1回(L)、10月2回(L,H)、11月2回(L,H)、12月2回(L,H)、1月2回(L,H)、2月2回(L,H)、3月1回(Lのみ)。Hは雨天中止)。この結果、Lにて、7回、Hにて、5回、計12回という山行となった。

これにより、約80のコース282ポイントのうち12コース28ポイントを踏査した。(累計で現在、69コース225ポイント)

踏査山行(実施分)

- ・4月10日(土) 嵐山(L)
- ・10月9日(土) 山北丸山(L)
- ・10月23日(土) 石老山(H)
- ・11月13日(土) 宮地山(L)
- ・11月27日(土) 丹沢三峰(H)
- ・12月11日(土) 栴形山(L)
- ・12月18日(土) 白銀山(H)
- ・1月8日(土) 松茸山(L)
- ・1月22日(土) 星ヶ山(H)
- ・2月12日(土) 南山・富士居山(L)
- ・2月26日(土) 袖平山(H)
- ・3月12日(土) 石垣山(L)

本プロジェクトは、支部公益目的事業として

5年計画(現在コロナのため2年延期)で実施するもので、神奈川県下のほぼ全ての山と主要な峠を踏査し、日本山岳誌の神奈川版を作成する。単なる登山ガイドにとどまらず、地学、気象、山岳信仰や山名の由来などの文化的な情報も加えた総合的山岳記録誌を目指しており、その情報提供などを通して社会へ貢献することを目的としている。踏査山行は、プロジェクトチームを中心に支部会員が協力して行い、ハイキング・登山初級程度のレベルの山行は原則として支部会員以外の一般の方にも公開している。

《他支部との交流》

*10月30日(土) 南関東B(東京多摩・埼玉) 合同懇親山行(当支部主催) コロナのため中止

《その他の山行》

*自然観察会

・5月1日(土) 自然観察会(相模川中流)(講師: 渡辺会員) コロナのため中止

・10月16日(土) 自然観察会(相模川中流)(講師: 渡辺会員) 実施

・1月29日(土) 自然観察会(泉の森: 大和市)(講師: 渡辺会員) 実施

*スキースノーシュー懇親会

・3月4日(金)~6日(日) 妙高高原

《本部プロジェクト》

JAC 創立120周年記念事業として全国山岳古道調査PJTが活動開始。当支部では、八菅修験の道、箱根旧街道、足柄古道を本部に提出。そのうち、八菅修験者道の実地調査を3回実施。

・11月15日(月) 八菅神社~塩川滝 実地調査

・12月13日(月) 経ヶ岳~華厳山 実地調査

・2月23日(水) 大山三峰山 実地調査

《神奈川県山岳連盟としての活動》

・8月8日 はだの山の日イベントにて、一般市民向けに開催されたフォトロゲイングのスタッフ業務に参画(長島、込田)

・11月7日 第35回県民登山にて、一般市民向けに開催された三ノ塔登山チャレンジコースのスタッフ業務に参画。(長島、永井)

《委員会・懇親会等》

・1月8日(土) 新年会 コロナのため中止
《会議等》

*支部連絡会議(本部開催) ZOOMにて(支部長、事務局出席)

4月10日(土)、9月25日(土)、1月20日(木)実施

*支部通常総会

5月22日(土)、県民センター1501会議室にて実施。結果は下記。147名会員のうち、実出席者:23名。支部長/事務局長への委任状による議決者:54名、書面議決者:5名(全員、全議案に賛成)により、議案賛成者は82名となり、過半数を超えているので、4件の議案はすべて可決承認された。

*役員会 県民センターにて

4月・5月・6月・7月・9月(zoomのみ)・10月・11月・12月・1月(zoomのみ)・2月・3月

計11回開催。

山行計画やプロジェクト、予算・決算等について、審議・報告を行った。

執行体制は、役員15名、監事2名、顧問4名、オブザーバー1名(3月末現在)。

*支部監査報告会 県民センターにて

・3月20日(日)出席者(富岡、砂田、森、込田、永井、青木)

*神奈川県山岳連盟理事会

・Zoom会議にて4月~3月開催。(2月のみ欠席)(長島、永井)。毎月第1火曜開催。

・代議員会(5月22日)出席者 代議員:砂田、込田、理事:長島、永井

*その他

・全国支部懇談会会場打合せ

9月1日(水)上郷 森の家訪問。(込田、長島、永井)

施設内の見学(寝室、食堂、講演会場、風呂etc.)、及びQ&A打合せ

《支部報》

本年度において支部報(電子版)は、年4回(4月、7月、10月、1月)発行予定したが、コロナのため、10月は、発行中止とした。JAC神奈川支部会員にメール配信を行った(郵送は有償で希望者のみ)。

令和3年度事業報告会計報告

1. 前期繰越金 235,959円

2. 収入

・本部からの支部交付金 271,563円

@2,000円×121名、新入会員獲得@4,000

×6名

・通信費(メール不使用) 3,000円

・受け取り利息(4/1) 2円

・受け取り利息(10/1) 1円

収入合計 269,003円

3. 支出

・神奈川県岳連年会費 19,000円*

県岳連盟への振込手数料 220円

・原稿料報酬(3件)支払(本部への支払い)

100,233円*

振込手数料 440円

・R3/5 総会案内(メール不使用者)

2,104円(内訳:はがき882円(@63円×

14枚)切手1,222円(@94円×13枚)

・会議室使用料 11,520円*

・レターパック送料 370円

・支部報発送費(メールなし) 1,740円

・ウィンドブレーカー10着 19,800円*

・手ぶら拡声器 54,560円

同上振込手数料 476円

・アルパインヘルメット7個 47,740円

・箱根古道調査関連費用 6,045円

・その他の雑費 5,565円

収支差額 233,399円

神奈川支部 令和4年度事業計画(案)

1. 基本方針

・会員相互間の親睦・連携を深めて、組織を確かなものにする。

・各事業は参加者負担による独立採算を原則とする。

・支部の特長を活かした計画的またはイベント的な事業を実施する。

2. 具体的方針

参加者は保険への加入を前提として、各自の自己責任で申し込みができるものとするが、申し込み後はリーダーの指示(参加の可否を含めて)にすべて従うものとする。支部所属以外の会員及び非会員の参加については、原則として、役員の紹介があってリーダーが許可した場合に限る。

山行計画の立案は、(1)の山行区分の支部山行として行い、(2)の5段階のレベルに分けて実施する。必要に応じて申し込み対象に

年齢などについて制限を設けることができるものとする。本年度は、20 回程度を目安に実施する。

支部の特長を活かした計画的またはイベント的な事業は、かながわ山岳誌プロジェクトや若手育成など中長期的な目標に基づきプロジェクト形式で行う。

(1) 山行区分

支部山行：支部が主催するすべての山行

個人山行：支部会員が個人的に行う山行

(2) 山行レベル（5段階）

- ・レベル1（入門）：ハイキング程度、一般登山道の3時間程度の山行
- ・レベル2（初級）：一般登山道の5時間程度の山行
- ・レベル3（中級）：一般登山道の長時間の山行、小屋泊の夏山縦走登山
- ・レベル4（上級）：テント泊の夏山縦走登山、冬山・沢登り・岩登りの初級
- ・レベル5（超上級）：冬山・沢登り・岩登りの本格登山（原則としてガイドが同行）

(3) 計画的またはイベント的な事業（例）

- ・かながわ山岳誌プロジェクト：神奈川県支部設立を記念し、5年計画（コロナ禍で、2年延長予定）で神奈川県下の2.5万分の1の地形図に記載された山名と峠及び登山対象となるピークのすべてに登って日本山岳誌の神奈川県版を作成し、それらの情報提供などを通して社会へ貢献し、公益社団法人としての役割を果たすことを目的とする。当面は日本山名事典に記載の県内の山・峠282ポイントを踏査し、その後2.5万分の1の地形図に載っているその他のピークを可能な限り踏査することを試みる

Lコース計画（今年度）

- ・台ヶ岳・小塚山、台山、鷹取山・湘南平（最終山行として残す可能性あり）

Hコース計画（今年度）

- ・丸山（箱根）、鐘撞山・加入道山（丹沢）、聖岳（箱根）、蛭ヶ岳（丹沢）、大観山（箱根）、ガタクリ峰（丹沢）、丹沢主脈、大界木山（丹沢）、榛ノ木丸（丹沢）、甲相国境尾根等
- ・古道プロジェクト
日本山岳会創立120周年記念事として、全国山岳古道調査のうち、神奈川県を担当。

当支部として、八菅修験者古道、箱根古道、足柄古道をターゲットとし、活動今年度は、箱根、足柄古道を中心に現地調査を実施。

- ・初級・中級向けステップアッププロジェクト：夏山テント泊縦走および準備山行を通して経験の浅い支部員のスキル向上を図る（但し、コロナの影響に依存する）

8月：北アルプス

- ・山の日事業：山の日を記念した公益的な事業を通じて一般の人に国民の祝日「山の日」の意義を知ってもらう

3. その他

1) 全国支部懇談会の担当支部活動

2022/10/8・9に予定されている全国支部懇談会は、全国から支部員120名を募り、全国支部会員との親睦を深める。

日時：2022/10/8(土)・9(日)

場所：上郷 森の家（横浜市栄区）

1日目：講演（観天望気 猪熊隆之氏）

2日目：ハイキング

鎌倉アルプス、三浦アルプス

支部員各位は、山行の各班リーダー等を担当。

※まん延防止等重点措置が解除されても、コロナ感染者数が激減しないことから、4月役員会にて中止としました。

2) 公益事業として、

- ・講演会・講習会などの山行以外の事業（アウトドアレスキュー講習など）
- ・山行目的以外でのハイキング（自然観察会など）についても、必要に応じ役員会において実施を検討する。
また、県岳連での公益事業に参画し、イベントスタッフ業務に従事し、ノウハウ等を吸収する。

神奈川県支部 令和4年度予算計画(案)

1. 収入：25.8万円

本部からの交付金・助成金25.8万円 ※

2. 支出：25.8万円

(1) 公益事業費

10.3万円

（かながわ山岳誌プロジェクト、公開講演会、山の日行事等）

(2) 共益事業費

15.5万円

(通信費、会議費、その他の支部運営経費)

(注) 支出に関しては、その都度、役員会の承認を得るものとする。

※ 支給基準: 令和4年6月末(見込み) 会員数 (ただし永年会員を除く)

会員 1 人あたり 2,000 円 × 125 名 = 250,000 円 …①

支部運営交付金 1,000 円 (主に共益事業を用途とするもの)

支部事業助成金 1,000 円 (主に公益事業を用途とするもの)

新入会員獲得報奨金 4,000 円 × 2 名 = 8,000 円 …②

① + ② = 258,000 円

神奈川支部規約一部変更

現行の支部規約の一部を次の通り、改める。

1. 変更の理由

事業の多様化・事務処理に対応するため、役員定員を増強する。

2. 変更の内容

変更の内容は、次の通り。

<現行規約>

第4章 役員及び役員会
(役員)

第7条 本支部には、次の役員・監事及び顧問を置く。

(1) 役員は、10名以上15名以内とする。役員には、支部長1名、副支部長1～3名、事務局長1名を含むものとする。

(2) 監事は2名とする。

(3) 顧問を若干名置くことができる。

<変更案>

第4章 役員及び役員会
(役員)

第7条 本支部には、次の役員・監事及び顧問を置く。

(1) 役員は、15名以上20名以内とする。役員には、支部長1名、副支部長1～3名、事務局長1名を含むものとする。

(2) (現行通り)

(3) (現行通り)

(執行体制)

役員

込田伸夫 (No.9546)	支部長
大槻利行 (No.13019)	副支部長
早川正志 (No.13956)	副支部長
永井泰樹 (No.14998)	事務局長
森武昭 (No.9620)	事務局補佐
青木まゆみ (No.15793)	会計
柴山信夫 (No.13123)	
落合正治 (No.13517)	
廣岡正敏 (No.14863)	
長島泰博 (No.15418)	
植木貞一郎 (No.15450)	
田島剛 (No.15835)	
渡辺正敏 (No.16276)	
田中浩二 (No.16461)	
葉上徹郎 (No.16469)	
出江俊夫 (No.15848)	
中島良行 (No.16387)	
玉木美智子 (No.16884)	

監事

砂田 定夫	(No.7863)
富岡 一郎	(No.12102)

顧問

川俣 俊一	(No.5007)
堀井 昌子	(No.8852)
中山 茂樹	(No.11319)
星 征雅	(No.14837)

オブザーバー

五十幡広樹	(No.14766)
-------	------------

新年度にあたって

込田伸夫

令和4年度支部総会は5月28日に横浜の県民センターで開催されましたが、残念ながら招待講演や懇親会は中止といたしました。コロナ感染者数がかかり減少したため、支部山行や山岳古道プロジェクト、自然観察会は十分な感染対策をして実施しています。過去2年以上にわ

たるコロナ禍のため、山岳誌山行は予定よりかなり遅れましたが、関係者の尽力により今年中には完了する見込みです。その後の企画として「関東の名山」、「関東の低山 100」、「神奈川の山城巡り」や「神奈川トレイル」などを検討中です。また妙高高原をベースとしたスキーや、山行、山菜取りなども実施しています。公共事業としては、神奈川県山岳連盟主催の「山の日」や県民登山などの活動に協力してまいります。また公開講座や招待講演なども開催していきたいと考えております。

今年度は高校・大学山岳部で活躍され、環境保全の仕事に長年従事された山スキーの出江俊夫会員、横浜市の職員を長らく勤められ、その間緑地保全にも携われた城マニアの中島良行会員、勤務先の山岳部でリーダーを務め、支部山行でも抜群の体力・技術を示されている愛猫家の玉木美智子会員の 3 名を新たに役員としてお迎えしました。ご三方とも支部山行や支部活動に積極的に参加されていて、今後の支部活動に貢献していただける役員として大いに期待しています。

神奈川支部は山を通して会員相互の親睦を図る団体です。安心安全をモットーとして、よりよいクラブライフを楽しめるよう努めていく所存です。今後とも会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

新役員自己紹介

出江俊夫 (No.15848)

この度日本山岳会神奈川支部の役員に就任いたします出江俊夫(イズエトシオ)と申します。

日本山岳会の皆様の中で見ますと取り立てての山の実績はありませんが、現在神奈川を居住のエリアとしており、日本山岳会神奈川支部の活動を微力ながらお手伝いできればと、役員をさせていただくこととなりました。

日本山岳会には、1 度目の退職をし神奈川に落ち着いた 8 年程前に入会させていただきました。その後は主に YOUTH 委員会(WV や青年部)で活動をさせていただいていましたが、2 年前に 60 歳となり YOUTH を卒業し、今は主に山スキー関連の同好会等を活動の場としております。

子供のころから親に近郊の山に連れて行ってもらい自然や生き物好きに育ちました。高校・大学と山関係のサークルに入り活動をし、その後、仕事として国立公園の管理など環境保全にかかわる仕事を 32 年間勤めました、この間 16 回転居をしつつ北海道から鹿児島まで全国を回ってきましたが、そこで感じたものは、日本は気象や環境の幅が広く、各地で特徴的な自然環境が形作られているということでした。若いころ赴任した屋久島では豊かな降水に支えられた立派な屋久杉の林に接し森林の奥深さを感じました。累計 3 回足掛け 6 年間住んだ北海道では釧路湿原、知床など厳しいが豊かな自然環境に育まれた”タンチョウ”、”シマフクロウ”などの希少種・絶滅危惧種の保護にも携わり生き物の不思議さを感じました。また、火山の噴火活動にも縁深く島原・普賢岳や洞爺・有珠山の噴火活動期間中に身近に勤務し地球の厳しくも雄大な活動を垣間見ました。

日本山岳会は登山・登攀等の活動以外にも、山に関連する幅広い分野でご活動されている山岳会と理解しております。神奈川県支部活動においても様々な視点から山に取り組まれている皆さんが活動されていると思いますので、私のこれまでの経験がわずかでもお役に立てればと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。



中島良行 (No.16387)

この度神奈川支部の役員になりました中島良行です。横浜生まれ横浜育ちの 72 歳です。

仕事は、横浜市の職員をしていました。山岳会と多少関連のあることでは、円海山近郊緑地特別保全地区などの緑地保全の仕事に 4 年ほ

ど従事しました。

本格的登山は、24歳の時に利尻岳に登ったのが最初で遅咲きです。「市民登山家」の定番で、百名山を目指したりしていましたが、完登後は、本当に好きな行きたい山に登ろうと考えを改めました。退職後は、それまで行けなかった北海道の山に毎年夏に一週間ほど行っています。

日本山岳会神奈川支部との関わりは、5年前に新聞で神奈川支部が「神奈川山岳誌」作成のための登山を行っており、協力者を求めていることを知って連絡し、山岳誌登山に参加するようになった次第です。お城が好きで、旅する折にはできる限り城跡を訪れます。

よろしく願いいたします。



玉木美智子 (No.16884)

この度神奈川支部の役員に就任した玉木美智子です。

今年正会員になったばかりで、特にこれといった山行経験も無い私で大丈夫なのか！？と戸惑っています。

当支部では楽しく山行に参加させて頂いていますが、おんぶにだっこ状態で申し訳なく思

っており、何かお役に立てる事があればと思ひ、役員を引き受ける運びとなりました。

行きたい所は沢山ありますが、何しろ高い所が苦手なため(認めたくないのですが、おそらく高所恐怖症の類...)山での活動は絞られてしまう気がします。

また、猫の話題には喜んで食いつきます。

どうぞ宜しくお願い致します。



山岳古道プロジェクト報告 (第4回)

全国120古道候補が出揃った。(会報「山」4月号参照) 今後、検討・調整のうえ最終決定していくとのこと。神奈川支部では「相州大山の道」において八菅修験の道に加えて大山参詣道を追加調査することになった。また、当支部においては、次のとおり公開調査山行を3回実施してきた。



↑箱根旧街道東坂 西海子坂付近

4月16日(土) 箱根旧街道東坂。須雲川自然探勝路入口から箱根関所跡まで石畳にある11の坂を越えての調査歩行。雨の時間帯もあったが山腹には桜が咲き、幻想的な景色を楽しむことができた。参加者は14名。5月7日(

土) 箱根旧街道西坂。箱根関所跡から箱根峠を越え静岡県三島市の笹原一里塚まで。箱根峠までは小雨模様だったが、峠からは晴れ間も覗き明るい石畳の道を下ることができた。日本百名城の一つ山中城跡では、富士山は見えなかったものの愛鷹山を望む場所で静岡支部勝又会員から愛鷹山について解説いただいた。城跡ではツツジもきれいに咲いており畝堀・障子堀とのコラボを楽しむことができた。参加者14名。



↑箱根旧街道西坂 山中城

6月4日(土) 足柄古道。矢倉沢から足柄峠を越え JR 足柄駅まで。奈良・平安時代には官道と位置付けられていた古道。途中、金太郎伝説の名所にも立寄りながらの山行だった。夕日の滝では、科学委員会福岡会員に当地域の地質、地層、断層等についてわかりやすくお話しいただいた。



↑足柄古道 足柄城址

足柄城址公園では小林会員の歌声に聞きほれた。また戦が入り林道ではモリアオガエルと泡状の卵を見ることができた。参加者は16名。これら3回の支部公開山行の延参加者数は、支部会員32名、支部外会員6名、会員外6名

の計44名。残された調査山行は今秋再開予定。(記:葉上)

山行報告

荻野川自然観察会

令和4年4月30日

前日の雨とうってかわって、晴天の下、荻野川観察会を実施できました。荻野川は、清川村の経ヶ岳に源を発し、厚木市を南南東に流れ、途中で真弓川を合わせ、小鮎川に合流する相模川水系の一級河川です。

本厚木からバスの乗り、源氏河原で下車し、ほどなくすると荻野川に架かる源氏橋に来て、傍らに源氏河原にまつわる石碑が二つ並んであります。ここ源氏河原一帯は、もともと源氏ゆかりの地で陸奥七郎(頼朝のひいひい爺さんの七男)の館があったと伝えられています。頼朝が石橋山の戦いで敗れ、この地に逃れて着いた時、「もし、ここに百の谷戸あれば天下にまたとなき要害の地なり」として再興の地としようとしたが、実際に数えてみると谷戸は九十九しかなく、一つ欠け谷戸が足りぬは縁起が悪いとこの地を諦め鎌倉の地を再興の地と決めたといわれています。

ここを後にし、荻野川沿いの道を右岸、左岸と主に野草や河畔木を観察して歩き、あつぎこどもの森公園の東口につき、ここに入った作業小屋の濡れ縁で昼食としました。

昼食後、あつぎこどもの森公園内の樹木や下層植生を観察して回りました。この公園は、里山の雑木林を整備した森林公園で、アップダウンや階段の登り下りがあり変化に富んでいます。

観察した野草、樹木、野鳥などは以下の通りです。

野草類：ショカツサイ、アカバナユウゲショウ、セリバヒエンソウ、イチリンソウ、ノジシャ、アマドコロ、ギンラン、キンランなど30種余り

樹木・キノコ類：マユミ、ヒメコウゾ、カゴノキ、ツルマサキ、ウツギ、ハリギリなど20種余りと白と黒色のキクラゲとカワラタケの3種

チョウ・トンボ類：モンキチョウ、ベニシジミ、ジャコウアゲハ、クロスジシロチョウ

の4種とシオカラトンボの1種

野鳥類：トビ、アカゲラ、ウグイス、ガビチョウ、コゲラ、シジュウカラ、ムクドリ
の7種

(行程) 本厚木①番バス停 9：48-源氏河原バス停 10：14-荻野川沿いの道-あつぎこどもの森公園東口・作業小屋 12：20 (昼食) 12：50-あつぎこどもの森公園内観察 (12：55～14：25) -稲荷木バス停 14：47-本厚木 15：20 解散

(参加者) 会員：吉澤平治、國清喜美子、細川治子、堀江精三郎、大字進、野田憲一郎、丸山さかえ、森武昭、森静子、石村日満子、関口由美子、藤川智恵子、渡邊正敏
会員外：天野明彦、松本晃介の15名 (渡辺正敏 記)



荻野川自然観察会

かながわ山岳誌 Hコース

箱根丸山

令和4年4月2日

<コース概要>箱根湯本駅(バス)～東芦の湯BS～笛塚～丸山～芦の湯温泉～阿字ヶ池弁財天～東芦の湯BS(バス)～箱根湯本駅

(歩行時間4時間18分)

東芦の湯BSから温泉街を抜け、湯の花高原別荘地を歩く。別荘地の北東角にある「新羅三郎源義光の笛塚」の石碑を確認して、急斜面の崖を下り枯沢に立つ。ここから丸山までは、すべてヤブの中の登りである。道標や道しるべとな

るマークは全くない。背丈程のヤブに少し雪が乗っているが、躊躇せずに突入する。二本の枯沢を横切り、右往左往しながら、急斜面のヤブを登ると丸山の頂上に着く。

頂上近くのヤブは密度が濃く、GPSを頼りに登っていく。やっとポッカーリ刈り払われた場所に着き、開放感に満たされる。しかし安堵のためどっと疲れが出る。付近に標識等はないが、ここが丸山の頂上と判断した。山頂を散策すると北西にゴルフ場が広がっている。昼食を取り小休止した後、下山する。先程来た激ヤブの中に突入り構わずGPSの軌跡を頼りに斜面を下る。下りの方がケモノ道やうっすらと続いた踏み跡がわかりやすい。どんどん下り過ぎて、GPSの軌跡を離れるが、どうにか別荘地の北東隅に出ることができた。ヤブから解放され、達成感に満たされた瞬間だ。別荘地を過ぎ、一軒の旅館で温泉に浸り汗を流した。近くの阿字ヶ池弁財天を参拝し、バスで箱根湯本駅へ向かい散会とした。田島剛記

<参加者>永井泰樹、田島剛

大室山・加入道山

令和4年4月12日

<コース概要>JR橋本駅(バス)～三ケ木(タクシー)～折花橋～鐘撞山～黒岩～大室山～破風口～加入道山～道志の湯(バス)～長又(タクシー)～旭ヶ丘(バス)～御殿場(バス)

(歩行時間6時間43分)

三ケ木から予約したタクシーに乗り、神ノ川沿いの林道を折花橋で下車。すぐに鐘撞山登山口の階段が始まる。植林帯の急斜面に入り、ジグザグ道を登る。右に分岐する水平道を進むと、途中で沢が崩れ、やむなく直登して鐘撞山へ向かう。鐘が設置された山頂を後に先に進むと、さらに斜面がきつい登山道となり、黙々と登る。やがて左手に大きな黒岩が現れ、南側の展望が開ける。さらに登ると徐々に南東の展望が開け、やっと大室山に到着する。「大室山」、「山梨百名山」の道標と三角点を確認した。ここから稜線を加入道山まで進むが、展望が開け気分爽快である。破風口で心地よい風に打たれ小休止。前大室山を経て加入道山へ進む。山頂が長方形の平らな広場に避難小屋が立ち、展望もよい。白石峠方面へ向かい、途中右へ折れて加入道山西尾根を下る。

斜面が崩落した箇所があり、慎重に下る。東屋を過ぎると緩やかな尾根となり、やがて車道に出て、道志の湯に至る。「本日定休日」の立て札を見て呆然としていると、バスが来て運よく長又まで乗車できた。長又からタクシーを呼び、山中湖まで乗り、バスで御殿場に出て散会とした。田島剛記



↑ 加入道山山頂

<参加者>永井泰樹、田島剛、関口由美子

箱根聖岳

令和4年4月23日

<コース概要>JR 根府川駅～白銀林道～前聖山～聖岳～清水橋～白銀林道～根府川駅

(歩行時間5時間58分)

根府川駅から国道135号線を西に歩き、小田原城カントリー倶楽部へ続く上り坂を進む。

「白糸溪谷」の道標を過ぎ「離れのやど星ヶ山」、「きのこ苑お山のたいしょう」の前を歩く。やがて民家が絶え、廃道となる。倒木とヤブを抜けると林道が終わる。ここから右手の崖をよじ登りヤブ山を登ると、ようやく踏み跡に出た。白銀林道に合流し北上して清水橋に至る。さらに林道を進み、前聖山につながる尾根を探す。比較的緩やかな尾根を見つけ登り始める。ヤブが少なく歩きやすい尾根だが、道標など全くない。読図、ルートファインディングをしながら植林帯を登ると前聖山に至る。「前聖岳」(前聖山の間違えか?)の手製標識と三角点を確認し、さらに尾根を南西に進む。やがて林道に出て、手入れされた植林帯の脇の踏み跡を追う。途中、踏み跡は西に巻くので、南の急斜面を直登すると聖岳に到着した。植林帯の中で展望はないが、「聖岳」の手製標識を確認した。

下山は、先程の林道まで戻り、林道を少し南西

に歩き、下草が刈り払われた植林帯の尾根を下る。植林帯が終わると急にヤブとなる。このまま尾根を下れば白銀林道の清水橋に出られるので、ヤブに突入した。

やがてヤブがなくなり、美尾根となる。尾根を間違えないようにルートファインディングし、どんぴしゃりと清水橋に下ることができた。この満足感と達成感がヤブ山の魅力である。後は、来た道を根府川駅へ歩き、散会とした。田島剛記



↑ 聖岳標識



↑ 聖岳山頂

<参加者>永井泰樹、田島剛、関口由美子、中島良行、小林英夫、玉木美智子

箱根/屋敷山・大観山・坊山・立沢山

令和4年5月21日

<コース概要>箱根湯本駅(バス)～箱根町港～屋敷山～大観山～坊山～立沢山～天照山 BS～白雲の滝～天照山神社～奥湯河原 BS(バス)～JR 湯河原駅 (歩行時間6時間55分)

箱根町港でバスを降り、国道1号線を大観山

方面へ進む。やがて車道の右にカーブミラー、左に「展望台 50m」の標識が現れる。カーブミラーの脇から踏み跡が上に続いている。踏み跡を追うと尾根の肩に乗り東側の展望が開けるあたりが、屋敷山である。標識は一切ない、カーブミラーまで戻り、大観山の広い駐車場まで進む。ここに大観山標高 1,011m の道標が立つが、大観山の山頂はこの南側のピークで立入禁止である。薄曇りから雨に変わり、雨具をつけてターンパイク左側の遊歩道を進み、坊山を目指す。道はやがて廃道となり、その先は深いヤブだ。背丈程の激ヤブに突入する。ヤブの下には、ケモノ道のような踏み跡がある。登りになるとヤブが低くなり開けた場所に出る。GPSを確認し坊山と判断するが、標識はない。大観山まで戻り、椿ラインを下る。途中、土肥大杉跡の案内板が立つ貯木場に出る。さらに進み箱根レーダー局前の BS に来る。左に道があるが立入禁止。その先が立沢山である。雨の降り続く車道を進み、天照山 BS に着く。鳥居が立ち、階段を下り天照山ハイキングコースへ入る。途中に白雲の滝を見るが、高低差もあり見ごたえ十分。さらに下ると、森の中に天照山神社の赤い屋根の拝殿が立つ。やがて車道に出て高級旅館街を過ぎ、奥湯河原 BS に出る。バスに乗り湯河原駅で山行を終了した。田島剛記



↑坊山山頂

<参加者>永井泰樹、田島剛、関口由美子、中島良行、藤川智恵子

ガタクリ峰

令和 4 年 5 月 29 日

<コース概要>JR 橋本駅 (バス) ~三ヶ木

(タクシー) ~平丸登山口~焼山~黍殻山
~ガタクリ分岐~棚上ノ丸~ガタクリ峰~
860m~813m~702m~水沢橋~鳥屋 BS
~橋本駅 (歩行時間 8 時間 50 分)

三ヶ木からタクシーに乗り平丸 BS で下車。国道 413 号線を西に進み、鳥居を見て黍殻山登山口に取付く。薄暗い植林帯に入るとヒルの攻撃が容赦ない。植林帯の急登が続きやっとな焼山からの登山道に合流した。姫次方面に進み、登山道は山頂を巻いてしまう黍殻山への尾根筋を登る。黍殻山の山頂には青根雨量観測局と三角点がある。山頂を後に、尾根を南に下り登山道に合流し、焼山方面に戻る。ガタクリ分岐には、赤テープの目印がある。開けた草原の森に向け踏み跡が続く。筆者はこの先に行ったことがなくワクワクして、勢いあまり、支尾根を下り過ぎてしまった。引き返し、隣の東の尾根にのり棚上ノ丸 (1,101m 峰) へ登る。新緑の森の中が美しい。やがて鞍部を超えガタクリ峰に到着する。手製標識を確認し昼食とした。山行は、ピストンして平丸へ戻る予定であるが、そのまま東へ延びる痩せ尾根を進む。鞍部に下り、もう一つの 880m 峰を超え細尾根を慎重に下る。702m 峰を超え、やっとな林道に降り立った。途中には、地図にない開発中の林道があり間違えやすい。ガタクリ分岐からここまで一切道標はなく、支尾根に降りないように注意した。また、痩せ尾根の連続で緊張しっぱなしであった。長い林道を鳥屋 BS まで歩き、バスで橋本駅に出て散会となった。田島剛記



↑ガタクリ山頂

<参加者>永井泰樹、田島剛、中島良行、小林英夫

丹沢主脈

<コース概要>JR 橋本駅(バス)～三ヶ木(タクシー)～焼山登山口～焼山～黍殻山～黍殻避難小屋～姫次～地蔵平～蛭ヶ岳～鬼ヶ岩ノ頭～棚沢ノ頭～不動ノ峰～丹沢山～塔ノ岳～大倉 BS(タクシー)～渋沢駅

(歩行時間 13 時間 56 分)

焼山登山口から明るい植林帯の登山道に入る。比較的緩やかな尾根で気持ちが良いが、ヤマビル注意の看板が出たと思ったら、すでに被弾し出血で右足のふくらはぎが真っ赤に染まる。めげずに焼山に到着。立入禁止の展望台と三つの祠がある。なだらかな尾根をずんずん進み、平丸分岐を過ぎ、黍殻山を巻いて、新しい黍殻避難小屋で休憩する。草原の中の小屋で気持ちが良い。姫次を過ぎ、原小屋平をとおり徐々に高度を上げ、蛭ヶ岳に到着した。時刻は既に 14:15。霧が濃く展望は望めない。ガスの中、丹沢山に向けて出発。

鬼ヶ岩付近は風が強く、クサリ場を慎重に登る。弁当沢ノ頭から合流する棚沢ノ頭付近は、なだらかな稜線で素晴らしいが、乳白色の中である。不動ノ峰を過ぎるとキリが晴れ、稜線から箒杉沢が時折見える。つるべ落としを登り返し、やっと丹沢山に到着。時刻は 16:22。みやま山荘では、食事の準備中である。重い腰を上げ、もうひと踏ん張りし尊仏山荘を目指す。すでにキリが晴れ、竜ヶ馬場や日高に続く稜線から大山、相模原、遠く横浜まで見通せる。最後の登りでやっと塔ノ岳に到着したが、辺りは薄暗い。時刻は 17:31。小休止の後、大倉尾根を下る。堀山の家まで下ると暗くなりヘッドランプをつける。真っ暗な登山道をやっと大倉 BS に到着した。時刻は 21:22 であった。すでに終バスは出発した後でタクシーを呼び、渋沢駅で散会とした。

田島剛記
<参加者>永井泰樹、田島剛、中島良行

役員会報告

4 月役員会

日時: 令和 4 年 4 月 21 日(木): 19:00～20:55
場所: かながわ県民センター 708 会議室
出席者: 込田支部長、永井事務局長、田島、長

島、廣岡

オンラインでの参加: 大槻副支部長、早川副支部長、森、落合、葉上、渡辺
オンラインで参加の監事: 砂田
オブザーバー: 中島、出江、玉木
委任状による出席: 青木、柴山

[報告事項]

(1) 会員の異動

- ・ 玉木美智子: 準会員(A0357)から正会員(16884)へ変更
- ・ 調子武弘と小宮佳子: 準会員加入の申請中
- ・ 退会: 14941 秋山典彦

(2) 山行報告

- ・ 3/26 に山岳誌プロジェクトHコースとして実施予定であった菰釣山・高指山の山行は、雨天のため中止とした。
- ・ 4/2 に山岳誌Hコースとして、箱根湯本駅(バス)=東芦の湯～ゴルフ場東端～丸山～ゴルフ場東端～東芦の湯(バス)=箱根湯本駅を実施。現地の状況が不明のため調査山行とし、プロジェクトの幹事2名でのみで実施。
- ・ 4/12 に山岳誌Hコースとして、三ヶ木 BS(タクシー)=神ノ川林道折花橋～鐘撞山～黒岩～大室山～馬場峠～加入道山～加入道山避難小屋～道志の湯(バス)=長又(タクシー)=旭日丘(バス)=御殿場駅を実施。参加者3名。
- ・ 3/19 に古道プロジェクトとして、厚木バスセンター(バス)=広沢寺温泉入口 BS～広沢寺ゲート～大釜弁財天～弁天の森キャンプ場跡～五段の滝～弁天見晴尾根取付～ひょうたん広場・東屋～弁天見晴～すり鉢広場～鍵掛～893m 峰(当初の計画からルート変更)～唐沢峠～不動尻～神の山隧道上～広沢寺温泉 BS(バス)=本厚木駅を実施。参加者は4名。
- ・ 4/16 に古道プロジェクトとして、箱根湯本駅(バス)=須雲川 BS～探勝路～江戸時代石畳～畑宿～甘酒茶屋～箱根港～箱根関所跡を実施。参加者は14名。

[審議事項]

(1) 年間計画

- ・ 5/22 に県岳連の代議員会開催
- ・ 自然観察会 6/18→6/25、9/17→9/10 に変

更

(2) 山行計画

- ・4/23 に山岳誌Hコースとして、根府川駅～白銀林道～前聖山～聖岳～小田原城 CC 用道路～白銀林道～根府川駅を実施予定。留守本部は葉上と渡辺が担当。
- ・5/14・15 に山岳誌プロジェクトHコースとして、渋沢駅＝(タクシー)＝県民の森～二俣～後沢乗越～鍋割山～熊木沢出合～弁当沢ノ頭～棚沢ノ頭～不動ノ峰～棚沢ノ頭～蛭ヶ岳(泊)～臼ヶ岳～金山谷ノ頭～金山谷乗越～檜洞丸～熊笹ノ頭～大コウゲ～小コウゲ～犬越路林道分岐点～犬越路林道～西丹沢 VC＝(バス)＝新松田駅を実施予定。留守本部は込田と長島が担当。
- ・5/21 に山岳誌プロジェクトHコースとして、箱根湯本駅＝(バス)＝箱根町港～屋敷山入口～屋敷山～屋敷山入口～大観山～大観山駐車場～坊山～大観山駐車場
A プラン⇒大観山駐車場～箱根町港＝(バス)＝箱根湯本駅
B プラン⇒大観山駐車場～立沢山入口(この先立入禁止)～天照山鳥居～奥湯河原＝(バス)＝湯河原駅
を実施予定。留守本部は次回決定。
- ・5/29 に山岳誌プロジェクトHコースとして、橋本駅北口＝(バス)＝三ヶ木＝(タクシー)＝平丸登山口～平丸分岐点～ガタクリ分岐点～棚上ノ丸～鞍部～ガタクリ峰～鞍部～棚上ノ丸～ガタクリ分岐点～平丸分岐点～平丸 BS＝(バス)＝三ヶ木を実施予定。留守本部は次回決定。
- ・5/7 に古道プロジェクトとして、箱根湯本駅＝(バス)＝箱根関所跡～芦川石仏～石畳～箱根峠～迂回路・国道1号線～接待茶屋跡～石畳旧道～山中城跡見学～スカイウォーク前～笹原一里塚～笹原 BS＝(バス)＝三島駅を実施予定。なお、希望者があれば笹原～三島駅を歩行することも可能。留守本部は大槻と渡辺が担当。
4/30 に自然観察会として、本厚木駅＝源氏河原 BS～荻野川沿いの道～あつぎこどもの森公園～園内観察～稲荷木 BS＝(バス)＝本厚木駅を実施予定。留守本部は込田と大槻が担当。

(3) 支部総会

5/28 開催の支部総会の資料を確認した。また、次回役員会で、支部長から今年度の役員業務分担案を提示することとした。

(4) 全国支部懇談会

資料の説明の後、現在の社会状況など勘案して10月に実施するか否か意見換した。審議の結果、今年度の開催は見送ることに決定した。支部長から、これまでの検討の経緯と見送りとした理由を書面で明記し、本部に報告することを確認した。

(5) 古道プロジェクトの報告

本部で検討を進めた結果、調査対象の追加があり、最終的に120のコースが確定した。神奈川支部では追加分はなかった。

5月役員会

日時：令和4年5月19日(木)：19:00～20:30

場所：かながわ県民センター705会議室

出席者：込田支部長、永井事務局長、田島、柴山

オンラインでの参加：大槻副支部長、早川副支部長、森、落合、葉上、渡辺、植木、田中

オンラインで参加の監事：砂田

オブザーバー：中島、出江、玉木

委任状による出席：廣岡、長島

[報告事項]

(1) 会員異動

支部退会 10507 松原尚之

(2) 第10回指導者育成講習会

4/3・4/4 に小諸市で実施。当支部からは、石川千嘉、中山茂樹の2名が参加。4/3の「山の天気」の講演会はWEBでも公開した。

(3) 山行報告

・3/27 山岳誌プロジェクトHコース、上野原駅＝奥牧野～大平山～綱子峠～入道山～平野峠～平野山～天神峠～舟山～峰山～やまなみ温泉 BS＝藤野駅を実施。参加者8名。

・4/10 に山岳誌プロジェクトLコースとして、相模湖駅＝プレジャーフォレスト BS～嵐山～相模湖公園～相模湖駅を実施。参加者は16名。

(4) その他

- ・永井より、ウインドブレーカー購入の今年度分19,800円の支払いを完了した旨の報告があった。
- ・永井より、4/6に開催された県岳連の理事会についての報告があった。

[審議事項]

(1) 年間計画

- ・年間計画を確認した。新たに加えた事項はなし。

(2) 山行計画：

・4/24に山岳誌プロジェクトHコースとして、本厚木駅北口＝三叉路BS～高畑山～松小屋ノ頭～本間ノ頭～丹沢三峰～丹沢山～竜ヶ馬場～塔ノ岳～堀山の家～大倉BSを実施予定。留守本部は大槻と渡辺が担当。

・5/1に相模川左岸を散策する自然観察会を実施予定。留守本部は長島と葉上が担当。

・5/8に山岳誌プロジェクトLコースとして、小田原駅＝国有林前BS～台ヶ岳～県道734号線～県道733号線～小塚山～小塚BS～碓氷峠～宮城野BS＝箱根湯本駅を実施予定。留守本部は別途依頼することにした。

・5/29に山岳誌プロジェクトHコースとして、相模湖駅＝プレジャーフォレストBS～大明神展望台～石老山～高塚山～石老山～牧馬峠～石砂山～城山(伏馬田城跡)～伏馬田入口BS(バス)＝三ヶ木BS(バス)＝JR橋本駅を実施予定。留守本部は次回決める。

(3) その他

・永井より、5/22に開催する支部総会の資料について説明。なお、支部総会は県民センターで開催するが、コロナの感染状況により会議室が使用できない場合には昨年度と同様に書面決議に変更することにした。

・葉上より、4/10に開催された山岳古道プロジェクト会議の内容について説明があった。全体で206件の提案があり、今後漸次120件に絞っていく予定。

6月役員会

日時：令和4年6月16日(木)：19:00～20:20

場所：かながわ県民センター705会議室

出席者：込田支部長、永井事務局長、森、田島、葉上、中島、出江

オンラインでの参加：落合、長島、渡辺、玉木、植木、砂田

委任状による出席：廣岡、青木、大槻、柴山、田中

[報告事項]

(1) 山行報告

・5/21に山岳誌プロジェクトHコースとして、箱根湯本駅＝(バス)＝箱根町港～屋敷山入口～屋敷山～屋敷山入口～大観山～大観山駐車場～坊山～大観山駐車場～立沢山入口(この先立入禁止)～天照山鳥居～奥湯河原＝(バス)＝湯河原駅を実施。参加者は5名。

・5/29に山岳誌プロジェクトHコースとして、橋本駅北口＝(バス)＝三ヶ木BS＝(タクシー)＝平丸BS～平丸分岐点～黍殻山分岐点～黍殻山～黍殻山分岐点～ガタクリ分岐点～棚上ノ丸～ガタクリ峰～大沢ノ頭～水無ノ頭～鞍部～奥野林道合流点～松茸山分岐点～ゲート～奥野隧道～鳥屋BS＝(バス)＝橋本駅北口を実施実施。参加者は4名。

・6/11に山岳誌プロジェクトHコースとして、橋本駅北口＝(バス)＝三ヶ木＝(タクシー)＝焼山登山口～焼山～黍殻山～姫次～蛭ヶ岳～丹沢山～塔ノ岳～大倉BSを実施。参加者は3名。

・6/4に古道プロジェクトとして、新松田駅＝(バス)関本経由＝矢倉沢BS～矢倉沢表関所跡～古道入口～定山林道・定山城跡～金太郎休憩所～夕日の滝往復～金太郎休憩所～地藏堂～古道山道～見晴台～石畳～足柄峠～足柄城址～虎御前古道入口～戦ヶ入り林道～銚子ヶ淵～頼光対面の滝往復～嶽の奥宮～足柄駅を実施。参加者は12名＋非支部会員4名。

(2) その他

・込田より、本部から依頼のあった山岳祭と宿泊施設に関するアンケート調査についての回答が紹介された。

・込田より、県岳連の会員証が届いた旨の説明があった。

[審議事項]

(1) 年間計画(資料3-8)

・永井より、7月以降の山行計画などの日程についての説明があった。

(2) 山行計画

- ・6/18 に山岳誌プロジェクトHコースとして、橋本駅南口=(バス)=湘南小学校前 BS~小倉山山頂付近~湘南小学校前 BS を実施予定。留守本部は込田と葉上が担当。
 - ・7/4 に山岳誌プロジェクトHコースとして、御殿場駅=(河口湖駅行バス)=旭日丘=(タクシー)=道の駅どうしの先の落合橋~城ヶ尾峠~大界木山~モロクボ沢ノ頭~バン木ノ頭~白石峠~道志の湯~和出村 BS=(バス)=月夜野=(タクシー)=三ヶ木 BS=(バス)=橋本駅北口を実施予定。留守本部は込田と葉上が担当。
 - ・7/9 に山岳誌プロジェクトHコースとして、橋本駅北口=(バス)=三ヶ木 BS=(タクシー)=蛭ヶ岳登山口ゲート~登山口分岐点~八丁坂ノ分岐~東海自然歩道最高地点~榛ノ木丸(最高地点)~10 榛ノ木丸(1192m)~榛ノ木丸(最高地点)~八丁坂ノ分岐~登山口分岐点~東野 BS=(バス)=三ヶ木 BS=(バス)=橋本駅北口を実施予定。留守本部込田と葉上が担当。
 - ・9/3 に山岳誌プロジェクトHコースとして、御殿場駅=(バス)=旭日丘 BS=(タクシー)=道の駅どうしの先の落合橋~城ヶ尾峠~ブナ沢乗越~菰釣山~石保土山~大柵ノ頭下~高指山~平野=(タクシー)=旭日丘=(バス)=御殿場駅を実施予定。留守本部は次回決定。
 - ・6/19 に自然観察会として、箱根板橋駅~老樗荘~香林寺~(登坂高低差約 110m)~総構え(小峰御鐘ノ台大堀切東堀)~城山公園~小田原高校周辺の自然林~二宮神社~小田原城内~小田原駅を実施予定。留守本部は永井と長島が担当。
 - ・6/25・26 に妙高の新赤倉温泉の支部サテライトを利用して、斑尾高原と一夜山のハイキングと山菜取りを実施予定。留守本部は渡辺と中島が担当。
- (2) その他
- ・永井より、山岳プロジェクトHコースの今年度実施分と今後の予定についての説明があった。
 - ・7月発行予定の支部報は、支部総会の内容を中心として編集することにした。
 - ・プロジェクトの踏査終了後の山行計画について、込田支部長から素案が提示された(席上資料配付)。
- その後、海外トレッキングを含めた多くの意見が提示された。さらに新たな提案があれば次回役員会までに事務局長に事前にメールで送付することとし、今回分も含めて総合的な視点から審議を進めて行くことにした。

あとがき

本号は支部総会を中心に構成しました。山行報告、役員会報告を中心にしてきましたが、今後は個人山行等の投稿も取り上げていきたいと考えております。ご意見をおまちしております。

発行：日本山岳会神奈川支部 支部長：込田伸夫

編集者：田島剛、永井泰樹、長島泰博、葉上徹郎

令和4年7月1日